

三郎山論集4 (上田女子短期大学 日本語教育研究会・国語研究倶楽部共同機関誌) 1997.3

〔論文紹介〕 曖昧な日本語表現

—中国人と日本人の言語表現に関する比較から—

劉 虹

大江健三郎氏がノーベル文学賞を受けた際の講演テーマは、「曖昧な日本の私」であった。いったい曖昧な日本とは、曖昧な日本語とは、曖昧な日本人とは、何だろうか。日本国・日本語・日本人について、一層深く理解するために、日本人が好んで使用する「曖昧表現」について、以下のよう項目を立てて検討を重ねた。

一. 曖昧とは

二. 日本語における曖昧表現

1. 添加によって表現を和らげる

(1) 添加方式

(2) 曖昧な単語を挿入する

(3) 外国人を悩ませる「ちょっと」

2. 非完結文が多い

3. 否定形を使う事が多い

4. 肯定的な表現をもって断りの意味を示す

5. 語義の多様性

6. 同音異義語

7. 語のゆれ

(1) 音韻のゆれ

(2) 文法のゆれ

(3) 表記のゆれ

三. 性格の相違 — 中日の曖昧な表現の比較について

1. 多弁直言 — 中国人の「個性」

(1) 「個性」社会

(2) 多弁直言は伝統

(3) 「個性」と曖昧

2. カドが立たない — 日本人の同質性

(1) 同質性社会

(2) 含蓄曖昧は美德

(3) 同質性と曖昧

四. 中国人と日本人の言語習慣の相違 — 日本人の曖昧さ

1. 断り方

2. へりくだり表現 — 「一応」

3. 遠回し表現 — 「考えておく」

4. 「はい、わかりました」

五. 挨拶のボディランゲージの相違 — 日本人の曖昧さ

1. ノンバーバル・コミュニケーション

2. 日本人特有の挨拶の身振り

3. 中国人特有の挨拶の身振り

4. 日本人の曖昧さ

六. 婉曲表現 — 中日の文学的表現の対照

1. 婉曲表現とは

2. 死を直接言うのを避ける

3. 「有喜了」「おめでた」

どんな言語でも、曖昧な性格を持っている。しかし、日本人は、言葉の曖昧さをあまり意識せず、それを巧みに利用して、争いを避けようとしてきたのではないだろうか。中国人と日本人の性格の相違、言語習慣の相違、挨拶のボディランゲージの相違などの点から、日本語における曖昧表現について考察した主な事例を以下にピックアップしてみる。

□非完結文の例——省略表現

これは、私自身の経験である。

『日本語大辞典』を図書館に頼んで注文したが、届いたのは旧版だと気づいた。新版にチェンジしてもらいたい。

私「申し訳ないですが、これは旧版のものと気がつきましたが……」

図書館の先生「はい、はい分かりました。それは、本屋さんの方が間違いました。」

この時、私は、「チェンジしていただきたい」という言葉を今にも口に出そうとしていたところである。そのところを先生は、ちゃんと理解してくださり、ほっとした。本当に「以心伝心」ということを実感した。

日本語に省略表現が多いのは、日本語の文法との関係が深い。日本語の文法は、中国語と違い、大切な述語が最後に来ることが多く、その重要な部分が表現されずに文が終わるからである。

□同質性と曖昧

私の見た限り、日本の大学生（短大生）は、授業中は本当におとなしい。先生から質問があるかと聞かれても、返事をしない場合が多いし、質問があっても友人に聞くのが普通である。ゼミナールの時も、じっくり考えることが多く、討論する場面が少ない。何もかも先生が主導する。先生に対して遠慮しているかと思ったが、それだけでなく、他人と違った考えを持っているということをおそれているようにも見える。自分の長所を自分で言明することは、「売り込む」行動となり、「いやらしい」と評価される。

自己抑制・曖昧表現などは、日本人にとっては、深く身についた精神的な態度である。表現を抑え、言葉にならない部分は、いわゆる「察し」に任せるのである。「含蓄に富む」「余剰を楽しむ」などは、日本人の望ましい境地である。

□遠回し表現——「考えておく」

去年の秋、長野県伊那市友好訪中団が北京を訪問した時のことである。伊那市と北京市の通県とは、姉妹都市提携1周年を迎え、その記念行事が催された。その際、今後の交流活動を一層盛んにするために、双方から提案があった。通県の方からは、「一緒にゴルフ場を建設してくれないか」という話が出た。それに対し、訪中団の団長は「考えておきましょう」と答えた。私は、「考慮考慮」と通訳した。でも、その後、伊那市からの返事はなかったそうである。

「考えておく」は、中国語に訳すと、「考慮考慮」「研究研究」になる。賛同の意とは言えなくても、多少は考えてくれる感じである。少なくとも、「断る」意味にならないのは確実である。

来日してから、「考えておく」に込められた「断り」の意味がやっと分かるようになった。この例こそ、聞き手に不快感を与えないような、やんわり曖昧とした「断り」表現である。

(りゅう こう／平成8年度外国人特別研究生／
中国、北京市旅行社日本部部长)